

# TREC-ATX

## THROTTLE ELECTRONIC CONTROL

この度は弊社製品<TREC>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はAT・CVT車のセンサー入力信号を独自回路により制御し、エンジンレスポンスを向上させるコントローラーです。

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

**お願い！** 本製品は性能向上、適合追加他の理由により、頻繁に取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はご面倒でも当社ホームページ上の取り扱い説明書を参考に取り付け、調整をおこなって下さい。

### ⚠️ 警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転者は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となってしまいます。
- 本体は運転の妨げにならない場所へ固定して下さい。
- 本製品はAT・CVTの制御を目的に製作されています。配線の接続及び、使用方法を間違えると車両の不調・破損・事故をきたす場合がございますので十分慎重に取り扱い下さい。なを何かの原因で車両の不調・事故が発生しても当社では一切の責任を負えませんのでご了承下さい。

### ⚠️ 注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備をもった安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 本製品およびハーネスを高温度もしくは水のかかる場所に設置することは絶対にさせて下さい。また製品を落としたり、衝撃を与えたりすると故障の原因になります。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。

### 【取り付け方法】 適合表を参考に車両の詳細を確認してから作業をおこなって下さい。

- 配線図と端子図を参考にTRECの4本の配線を実際に接続して下さい。(ECU端子図の最新情報はホームページにPDFファイルにて記載してあります)
- 配線終了後エンジンを始動させ『カラ吹き』にてエンジンが正常に吹けあがるのを確認して下さい。  
\* DCコネクタを使用すると簡単、確実に接続が出来ます。
- TREC本体は水、熱のかからない場所へ両面テープにて固定して下さい。ハーネス類は運転の妨げにならぬようにまとめて下さい。

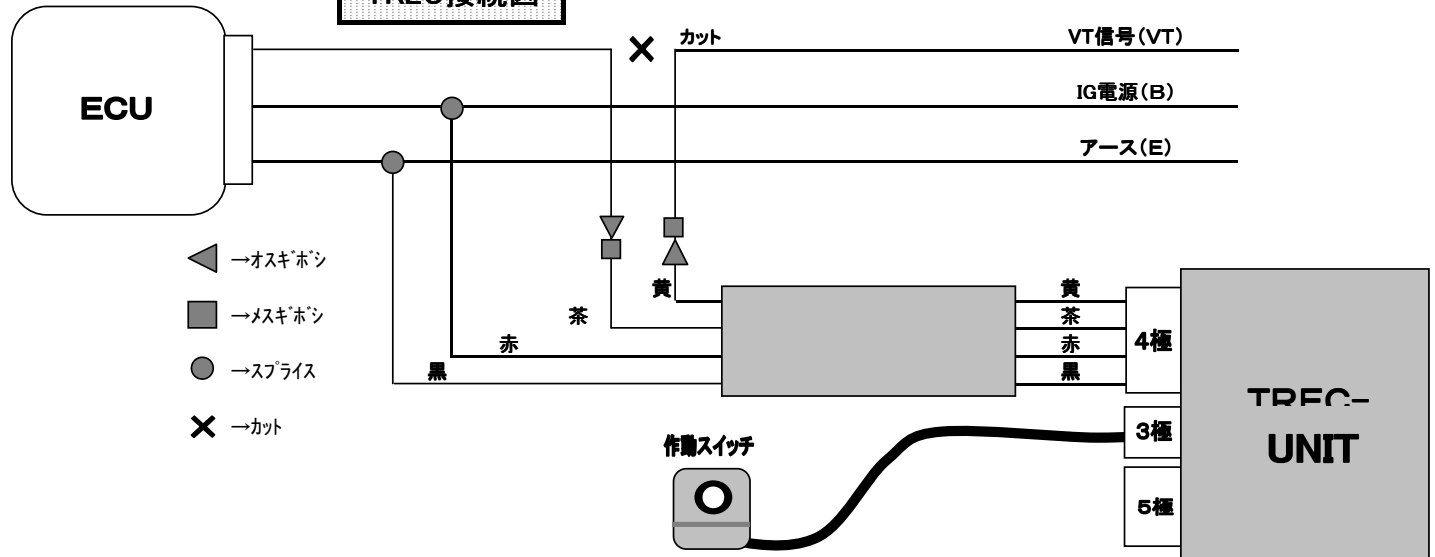
### 【配線方法】 注意！配線を間違えると車両ECU、TREC本体が破損する場合があります作業は慎重におこなって下さい。

- 配線図と端子図を参考にTRECの4本の配線を実際に接続して下さい。(ECU端子図の最新情報はホームページにPDFファイルにて記載してあります)

### ⚠️ 注意！ ● 取り付け作業はキースイッチを抜いてから数分間はおこなわないで下さい。(完全に電源がOFFになるまで)

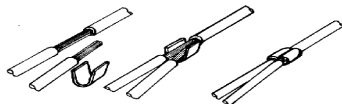
- キースイッチを抜いても数分間電源がOFFにならない車両がある為
- 電源がOFFにならない状態で作業をおこなった場合は車両ECUが『エラー認識』してしまうことがあります。
- 取り付け作業はバッテリーをはずさずにおこなって下さい。→バッテリーをはずした場合は(アイドリング学習)が必要となってきます。
- 接触不良等がある場合、正常にエンジンが吹けあがらない、エンジンチェック点灯等の状況が出てしまいます。  
この場合専用の機器しかエンジンチェックの点灯は消せないことがあります。十分注意して作業をおこなって下さい。

### TREC接続図



- ① 車両ECUのIG電源線(B)へTRECの赤色線をスプライスにより接続します。
- ② 車両ECUのアース線(E)へTRECの黒色線をスプライスにより接続します。  
\* アース位置は重要です。確実に接続して下さい。(他の場所のアースは不可！)
- ③ 車両ECUのVT信号線(VT)をカットしてECU側へTRECの茶色線、車両側へTRECの黄線をオス・メスキボシにより接続します。
- ④ 運転の操作の妨げにならぬよう、配線をまとめて下さい。本体は水、熱のかからない場所に固定して下さい。

### 参考/スプライスの使用方法



- ① 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。
- ② TRECの配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。
- ③ スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかします。
- ④ ビニールテープにて接合部を絶縁します。

## 【端子他使用方法の注意点！】

- 配線の接続にエレクトロタップの使用は絶対にやめて下さい。スプライスかハンダ付けによる接続をおこなって下さい。
- ギボシ類は下記写真の注意点を確認して、確実な配線をおこなって下さい。



\*エレクトロタップの使用は接触不良の原因になります。必ず付属のスプライスを使用して下さい。



<良い例>  
\*ギボシのかしめ部(小)に配線の導体部分のみ接触する。



<悪い例>  
\*ギボシのかしめ部(小)に配線の導体部分とビニール部分が接触する。

## 【調整方法】 取り付け終了後、下記の設定をおこなって下さい。

**注意！設定ミスをするとうエンジンチェックが点灯して走行不能になる場合があります。調整は慎重におこなって下さい。**



STボリューム      ディップスイッチ

<ディップスイッチの設定> \*ディップスイッチは下に降ろすとONになります。操作は必ずエンジンOFF時におこなって下さい。  
●2・4のみONに設定して下さい。

### <STボリュームの仮設定>

- UNIT横のSTボリュームを写真を参考に★印の位置へ精密ドライバーにより仮設定して下さい。  
→STボリュームは後ほど再調整します。

### <作動確認/エンジン停止時> TRECの制御が開始するとUNIT横の緑LEDが点灯します。

- イグニッションキーをONにし、作動スイッチを押して本体の電源を入れ、下記の確認1～3をおこなって下さい。  
注意！ この作業はエンジンを始動せずに、キースイッチONにておこなって下さい。
- 確認1 アクセルOFFの状態ではUNIT横の緑LEDは消灯！（この状態で緑LEDが点灯する時は→STボリュームを調整）
- 確認2 アクセルを踏んで行くと緑LEDが点灯！（この状態で点灯しない時は→ディップスイッチ、配線再確認）
- 確認3 アクセルを全開にした時に緑LEDは消灯！（この状態で緑LEDが消灯しない時は→ディップスイッチ、配線再確認）

### <STボリュームの再調整> TRECの性能を最大限に引き出す為に重要な調整です。

- アクセルをわずかに踏んだ時にTRECを作動させるとTRECの効果が最大限に発揮できます。  
STボリュームの調整によりこの調整をおこないます。
- イグニッションキーをONにし、作動スイッチを押してから調整をおこなって下さい。
- アクセルをわずかに踏んだ時にUNIT横の緑LEDが点灯するようにSTボリュームを精密ドライバーにより左へ少しずつ回して下さい。（注意！ 調整はエンジン停止時におこなって下さい）

⚠注意！ ●この作業はエンジンを始動せずに、キースイッチONにておこなって下さい。  
●アクセルOFFにて緑LEDが点灯してしまうと、アイドリング判断が狂いアイドリング不調になります。  
**注意！アクセルOFFにて緑LEDが点灯しないこと。**



## 【トラブルチェック】

### <アイドリング不調>

- アクセルOFFにて緑LEDが点灯していませんか？<STボリュームの再調整>を参考に再調整して下さい。
- 取り付け作業時にバッテリーをはずしてしまった時はアイドリング学習が必要です。カーディーラー等にて確認して下さい。

### <エンジンチェック点灯、吹けあがらない>

- ディップスイッチの設定を確認して下さい。
- 配線の接触・配線位置を再確認して下さい。

### <作業中のミス等にてエンジンチェックが消えない場合>

- カーディーラー等の専用機器のある工場にてエンジンチェックランプを消してもらって下さい。
- バッテリーを20～30秒ははずすことにより消える車両が多くあります。注意！この場合アイドリング学習が必要な車両があります。
- 正常状態にて走行し、3～5回走行→エンジン停止を繰り返すと自動的に消える車両が多くあります。（参考）